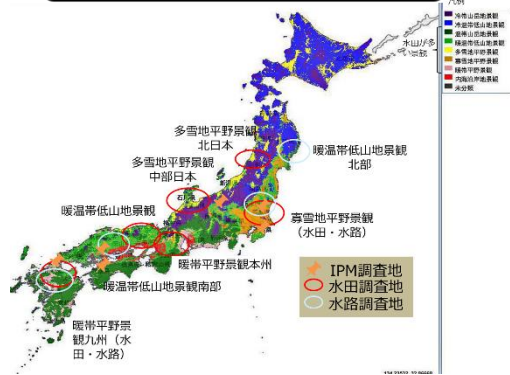


生物多様性を活用した安定的農業生産技術の開発(収益力向上のための研究開発)

【概要】生物多様性を活用することで農業生産の安定化を図るため、全国規模の生きもの調査を実施し、果樹園・水田のIPM圃場管理技術事例集と、水田の生物多様性および農業水路の魚類を調査・評価するマニュアルをウェブ公開した。これらにより、土着天敵類の効率的利用と生物多様性の「見える化」が可能となり、生物多様性を基盤とする地域の活性化に貢献する。



全国規模の生きもの調査 (IPM圃場・水田・水路)



IPM

減農薬と草生栽培(果樹園)や水・畦畔管理(水田)との組合せにより土着天敵類が増える。

【ナシ園】減農薬+株元草生栽培

- 樹上の天敵: カブリコバネ
- 地上の天敵: トビハナカマシ
- 通風の草又は10cm程度に管理
- 株元に草を残す

【水田】

- 水田の生物多様性
- 水田の生物多様性
- 水田の生物多様性

水田

サギ類とその餌生物を指標化することで、水田の生物多様性を簡易な調査で包括的に評価する。

指標生物による基礎点(必須) + 絶滅危惧種による加算点(任意) = 総合評価

指標生物 (調査の場合)	基礎点 (調査の場合)	1点	2点
サギ類	1羽未満	1羽以上	2羽以上
水田魚類	1種未満	1種以上	2種以上
アシナガモト	1羽未満	1羽以上	2羽以上
オシロイ	1羽未満	1羽以上	2羽以上
指標植物(5種)	2種未満	2種以上	3種以上

5点以上⇒S 非常に良い
3~4点⇒A 良い
1~2点⇒B やや悪い
0点⇒C 悪い

水路

採点を自動計算するプログラムを用いて、農業水路の「魚の棲みやすさ」を簡易に評価する。

